

被爆70年の聞き取り

「“ノーモア・ヒバクシャ”を実現するために」

広島・長崎の被爆から間もなく70年を迎えようとしています。

この長い間、被爆者のみなさんは体と心に深い傷を負い、その不安と苦しみの「生」を生きながらも、原爆は人間に何をなし続けるのかを身をもって告発してきました。核戦争の地獄の体験と、被爆者として生きねばならなかった「生」を通じた命の叫びは、国内外の人びとに原爆被害の実相を知らせ、“核兵器は人間と共存できない”、“ふたたび被爆者をつくるな”の世論を広げてきました。

しかし、核兵器廃絶を実現するためには、“ノーモア・ヒバクシャ”の志を被爆者とともに担う人びとの輪をさらに大きくしなければなりません。

このとりくみは、被爆者とその思いを受け継ごうとする人たちが語り合う場を数多くつくり、被爆者一人ひとりの声を「聞き取り」の形で集約し、次の世代や世界に継承しようとするものです。その声は 2015 年のNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議に届けるなど、さまざまなステージにおいて活用し、核兵器廃絶への国際世論を高めることにも反映させたいと思います。

〈原爆地獄〉から70年を生きぬいてきたあなたの思いのたけをぜひ聞かせてください。

2013.6 日本原水爆被害者団体協議会

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

■ 基本事項 (太線の枠内にご記入ください)

記入年月日	2013年 11月 11日	整理No.	—
ふりがな 氏名	木場 耕平 (こば こうへい)	性別	1. <input checked="" type="radio"/> 男 2. 女
生年月日	明・大 <input checked="" type="radio"/> 8年 月 日 (被爆時年齢 12歳)		
現住所	〒 電話 FAX		
被爆地	1. 広島 2. <input checked="" type="radio"/> 長崎 [町名 距離 . km]		
手帳区分	1. 直爆 2. <input checked="" type="radio"/> 入市 3. 救護 4. 胎内 5. 健康診断受診者証 [一種・二種] 6. 被爆者の子・孫 7. その他		
氏名の公表の可否	1. <input checked="" type="radio"/> 可 2. 不可		

1. 「あの日」やその直後のことで、今でも忘れられないこと、心残りなことはどんなことですか？
とくに忘れられない光景や、それを見て感じたことを具体的にお聞かせください。

私は中学一年の時、長崎で被爆しました。父は支那事変から二回目の招集で出征中、二つ上の兄貴は三菱兵器大橋工場に動員されていて、母と私と妹が2人で爆心地から100mのところにある家で暮らしていました。

前日は遅くまで警戒警報が鳴って寝たのが遅く、今日は作業だけど眠いから休ませてくれと言ったら、お袋が「ずる休みはダメだ」と言っておにぎりをつくって、家を追い出されました。そのお陰で私は助かったようなものです。

私は橋湾の海岸沿いにアメリカ軍の上陸に備えて陣地を掘っていました。ちょうど11時2分、パッとマグネシウムを焚いたような光が来たので伏せました。そしてしばらくしたら長崎の方からドーンという大きな音がしてキノコ雲が上がり、辺りが真っ暗になって空から灰や紙切れがどんどん落ちてくる。先生は近くに大きな爆弾が落ちたようだな、と言っていました。それが長崎の原爆でした。作業をやめて山を下り長崎へ向かいました。崇福寺の辺りまで来たら4階建ての県庁の建物が火を噴いている。火災が広がっていたので市内には入れない。私たちは西山を通過して金毘羅さんをまわって浦上の方に出ました。そうすると見慣れた長崎医大の煙突は折れているし、浦上天主堂が壊れている。みんな灰色になっていて所々で火が燃えていました。兄貴が勤労働員で行っていた三菱兵器大橋工場は爆心から1.5kmくらいのところですが、そこも燃えていて、時々、ポーン、ポーンと大きな火の手が上がっている。兄貴も死んじゃったかと思っていましたが、兄貴は魚雷と旋盤の間に伏せて、それで背中をちょっと怪我した程度で助かったんです。後で見に行くとたくさんの方が死んでいてとても手を付けられないと言っていました。兄貴もやっぱり14、5歳の子どものですから敏捷だったんですね。火が回る前に逃げて助かった。そういう状況でした。そういう状況でそこからも先に進めない。その晩は長崎医大の近くの小高い丘で野宿をしました。周りで「助けてくれー」という声が聞こえるけれど、私たちは何も持っていないので、それこそどうにもしようがない。途中で幽霊みたいな人とたくさん会いましたから、何がどうしたのか、と思っていました。

夜中に、寝るとはなしに寝ていると、ものすごく列車の汽笛が鳴るんです。うるさいな、何をしているんだろうと思ったんですが、これが有名な救援列車でした。道ノ尾までは列車が入れたんですが、そこから先には列車は入れなかったんです。枕木がまだ燃えている中を入れるところまで入ってきて。4回入ってきて怪我人を収容して、大村、諫早、佐世保、佐賀と、病院へ3500人くらい救ったそうです。

翌日、私はまだ薄暗いうちに起きて、爆心地の近くに行きました。その時は、そこが爆心地だということはまだわからなかったんですが、倒れているものの向きから、近くに落ちたのかなとは思っていました。私の家には井戸があったので、すぐにわかりました。隣の家は仕立屋さんでしたが玄関のところに白骨が3体並んでいました。それから裏の家は草野さんというお宅で、大人の胴体だけ黒く残っていてあとは白骨になっていました。小父さんか小母さんだったのでしょうかね。

そこで近所の島田さんという小母さんと会いました。「あなたは生きていたの。よかったね」。小母さんは子ども4人を家に置いて食糧の買い出しに行っていて、子どもたちを探しているということでした。その辺の壊れた鍋を拾ってきて、壊れた水道栓からチョロチョロ流れている水を汲んでジャガイモを蒸かしてもらって食べました。そうすると顔を半分怪我した女子挺身隊の女性が、その水を見て「水を飲ませてください」と言うんです。どうぞと言ったら水を飲んだとたんにガクッとなって伏せてしまった。今思えば名前やどこまで帰るのか聞けばよかった。小母さんは4人の子どもを探していて人のことどころではない。私も家族がどうなっているか分からなくて人どころではない。人がその辺で倒れていても平気なんです。もう神経が麻痺してしまっている。

それから学校へ行ってみました。建物はコンクリートなので残っていましたが、中は全部燃えてしまっていました。建物の外には200人くらいの怪我人が横たわっている。顔を見て回ったけど知っている人が誰もいない。おかしいと思いました。あとで三菱兵器の精密機械工場になっていたのを知りました。それで知っている人がいなかったんです。

帰る途中、B29が飛んで来て、歩いている人がみんな隠れましたが私はどうなってもいい、早く死にたいという気持ちがあってそれを見上げていました。そうすると上空からキラキラ光るものが落ちてくる。宣伝ビラでした。それには「日本国民に告ぐ 都市より直ぐ退避しろ この爆弾は原子爆弾といって B29、2000機分の破壊力を持っている。」そう書いてある。原子というと原始時代の原始しか知らなかったの、その時は原子爆弾が何なのかわからなかった。それから印刷された紙がものすごく真っ白できれいでした。その2つが印象に残っています。

しばらくすると近隣からたくさんのおにぎりを積んだトラックがやって来ました。私は前の晩から食べていないからお腹はペコペコでした。それでおにぎりを頂いて食べようとしたのですが食べられない。黒焦げ死体はたくさん転がっている。人間の首とか胴とか足、手、これが叩きつけられて壁際や溝の中に転がっている。それが炎天下の夏の陽にあぶられて臭い出しているんです。大人の方は“腹が減っては戦は出来ぬ”と食べますが、私のような子どもの軟な心では食べられなかった。今思うと、食べなかったのが内部被爆しなくて済んだ。だいたいあの時に作業に来ていた人たちは10年以内にみんな死にました。私なんかは何もできなかったの、今の年まで生かされている。その時は内部被爆とか放射能とか、そういうことは全然知らなかった。あの時、私も食べていたら、それこそ内部に入り込んだ放射能は長い間、微量の放射線を出し続け、胃とか肝臓とかに10年、20年後にいろいろな病気が出てくる。そういうことが今は言われていますが、当時はそんなことは全然考えてもいませんでした。

その後、新興善国民学校の方に親戚の家がありましてそこでしばらくお世話になっていました。新興善国民学校は3階建ての建物が窓枠は飛んでいましたが床はきれいでした。そこが長崎唯一の怪我人の収容所になっていました。頭を並べて一列15人ずつ、それが4列で1階から3階まで満員でした。薬は水をドラム缶で煮沸して傷を洗うだけで何もありませんからバタバタと死んでいく。記録によるといちばん多く死んだのが168人。死ぬと担架に載せて校庭に持って行って、井桁に積んでガソリンをかけて焼く。昼間それをや

るんですからね。私はそれまで黒い焼死体はずっと見てきましたから何とも感じないのですが、生身の人間がガソリンをかけて焼かれるとどうなるんか。死体が動くんです。それはちょっと……それを昼間にやるんですから地獄絵図とはあのことです。それをいつまでも覚えていて、時々思い出します。髪はボロボロになっていて男か女かもわからなくなっている。その時私はこの世には神はいない。悪魔だけだと思いました。

2. 被爆してから今日までの人生で、とくにあなたの心に残っていることはどんなことですか？その中で被爆したためにつらかったことがあれば、お聞かせください。

- | | | |
|--------------------|-----------|-------------------------|
| (例)・ <u>家族を失った</u> | ・病気がちになった | ・ <u>自分の健康がいつも不安</u> |
| ・就職・仕事が思うようにならず | | ・ <u>進学や学業が思うようにならず</u> |
| ・結婚・家庭生活が思うようにならず | | ・子供や孫の健康・将来が不安 |
| ・被爆をかくして生きてきた | | ・あの日のできごとが心の傷になって残った |

また、そのつらさを抱えながら生きてくるなかで、あなたの支えになったのはどんなことですか？

自分が生きていくのが精いっぱい。学校の廊下に「木場耕平 右のものの学費滞納につき除籍処分にする」と書かれていた。卒業してから恐る恐る学費を持って行ったら、はいって出してくれる。これには気が抜けました。私がいちばん困ったのはアルバイトの通勤費。それからいいところに就職できない。除籍になっているから。証券会社と銀行とかに100人単位で入っていくのを黙って見ていました。

身体がだるいのはありましたけれど、それは気持ちの問題だと思って病気とは思わなかったんです。ただ傷を受けると治りにくいんです。あれがいちばん困ります。蚊に刺されても化膿してしまう。

3. 被爆者として、今一番困っていること、とくに心にかかっていることはどんなことですか？

- | | | | |
|-----------|----------------------------|-------------------------------|---------------|
| (例)・自分の健康 | ・自分と家族の生活 | ・子や孫の健康 | ・原爆で死んだ人たちのこと |
| | ・ <u>また核兵器が使われるのではないかと</u> | ・ <u>日本がまた戦争する国になるのではないかと</u> | など |

4. あなたのまわりで亡くなられた被爆者について、忘れられないことや言葉があればお聞かせください。

当時は制空権はアメリカにありましたからB29だけではなく艦載機もやって来るんです。日本全国が空襲されていて、私も7月末に5歳の妹と歩いていて艦載機に機銃掃射をされました。あわてて街角の防空壕に飛び込んだんですが、そばを機銃掃射されて妹が怖がって大きな声で泣くんです。私は妹の泣き声がパイロットに聞こえるのではないかと、あわてて妹の口を押えました。それから10日ほどして原爆で妹は亡くなりました。

私には5人孫がいるんですが、そのうちの一人の5歳の女の子が、今はいいですね。丸々と太って、そういう機銃掃射を受けるようなことを思いもしないで屈託なく生きている。

私はその時まで息子たちにも孫たちにも、このまま何も話さずに消えていこうと思っていたんですが、やはりこのことは語る義務がある。そういうふうに思いました。今の子どもたちは平和は当然のことと思っています。私たちの時にはいつ機銃掃射でやられるか、ビクビクしながら生活をしていました。夜は灯火管制です。そういう生活でした。平和っていいな、しみじみその時に思いました。

5. いま、被爆者として、アメリカ政府や日本政府にこれだけは訴えたいこと、求めたいと思うことはどんなことですか？

6. いま、被爆者として訴えたいこと、世界と次世代の人々にこれだけは伝えておきたいことをお聞かせください。

原爆投下正当論というものがあります。原爆を投下することによって多くの日米の人命を救った。原爆のお蔭で早く戦争が終わったということを行っている。だから原爆投下はいいことをしたんだと。それが私どもは一番悔しい。

ところが4年前、アメリカのオバマ大統領はチェコの首都プラハで、核保有国として、原爆を落とした唯一の国として、核の削減に努める道義的責任を負うと言いました。直接的ではありませんが、間接的に謝罪をしたということ。今までの歴代のアメリカの大統領は原爆投下正当論だったんです。次にはぜひ広島・長崎においでいただきたい。

都内でそういう話をしたときに高校生から「そういうしうちを受けて復讐する気にはならないのか」と聞かれました。私どもはアメリカが原爆を投下したのだから、今度はアメリカ人の頭の上に原爆を投下して、という復讐の連鎖は断ち切るべきだ。原爆をなくすことが最大の願いです。

20日くらい前の新聞に出ていましたが、インドとパキスタンも原爆を持っています。そのインドとパキスタンが国境紛争をやった時にアメリカのパウエル国務長官がパキスタンの大統領に電話して、あなた方はヒロシマ・ナガサキの写真を見たか。核兵器は使えないんだ。それをなんでつくるのか。そう言ったら確かにそうだ。現在、核保有国というのはアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国、インド、パキスタン、それからイスラエルが持っていると言われてます。そしてこの前、実験に成功した北朝鮮。使えないものをなんで持っているのか。抑止力になっていると思ったらとんでもない。幸い長崎以降、核を使った国はありません。そして将来的には全世界から核がなくなるということを私どもは願っております。

戦争を知らない二世、三世の政治家が、戦後政治からの脱却と言って、憲法9条を変えようとしています。とんでもないと私どもは思います。戦後、70年になろうとしていますが日本の自衛隊からひとりも戦死者は出ていない。これは憲法9条のお蔭です。アメリカは太平洋戦争のあとに何回戦争をしているか。そして決していいことはない。そういうことを思うと、私どもはこのことを若い人に伝えていって、これを維持していただきたい。私も80歳ですから残りはあとわずかなくなります。いなくなった時に、私どもは心配ではない。今の戦争を知らない人たちが、この世の中を牛耳ったときに、そうなっ

ていくのか。憲法改正については今は反対する人たちが多数派のようですから安心だとしても10年、20年先にはどうなるか。

今の若い人たちの中には北朝鮮が核兵器を開発するなら先制攻撃をすればいいと、簡単にそういうことを言う人がいます。

私たちは今の若い人たちに憲法9条を堅持してほしいと願っています。

* 被爆の実相を伝え残すため、あらためて詳しくお話をうかがうことはできますか？ (可)・否]

[聞き取りをおこなった方の記入欄]

聞き取り日	2013年10月19日	聞き取り場所	主婦会館プラザエフ
聞き手	ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 「被爆の証言を聞くつどい」 (6名)	連絡先	ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会事務局

聞き取りの感想、受け継ぎ手として世界と次世代の人々に伝えたいこととお書きください。

- 私も家族にはほとんど話していない。孫が小学校の勉強でおじいさんのお話を聞いてくるようにということで書いたけれど、それからまた黙っている。ビキニ事件後原水禁運動は冷ややかに見ていました。学生がやることで生活実感とかけ離れていると思いました。長崎はみんな貧乏していました。ニコヨン、失対で働いて。まだ防空壕に住んでいる人がいましたから。
- ありがというございます。私も二人の娘におばあちゃんは被爆者で私は二世、お前たちは三世だということは話すのですが、私も母の話をきちんと聴くということができていません。母は長崎駅の近くで被爆したらしいのですが、もう少しきちんと話を聞いて、私が娘たちに話せるようにならなくてはと思っています。
- 私が印象に残ったのは話していないということ。そういうときの気持ちをもっとお伺い出来ればと思う。小説でヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマというテーマで書いていきたいと思っています。
- 私の住む大船の近くに原爆の火というのが灯され続けています。「平和の灯」と書いてあるがよくよく見ているうちに、これはあの広島でいろいろな人たちを焼き殺して、すべてを無にしてしまった業火、大変恐ろしい火なんだ。それをなぜ後生大事に灯し続けているんだと思った。それでずっと考えていたのですが、この火が「平和の火」として灯され続けていく中で、業火であると同時に平和への祈りの火でもあるということがわかってきました。物だけが残っても何も伝わらないだろう。語り部の人語ることによって初めて分かる。原爆の火も、ドームもマリア様の首も同じです。語る人がいなくてはいけない。人の言葉で、生活の実感として語ることがだいじなのではないか。私自身は何ができるか、とにかく今は証言を聞くこと。その上でどう伝えていけるかということを考えています。
- 戦後70年を生きる中で様々な差別を受けてきたのではないかと思うのですが、今日はそういうお話をなさらなかったのも、時間があればそれをお聞きしたいと思っています。12月にまた大規模な集いがあるので、ここに現役の先生に出来る限り声をかけて貴重な証言を直接お聞きするようにしたい。私は高校生平和ゼミナールに世話人をしているので、ぜひ12月には多くの中学生高校生を誘って、語り伝える活動をつないでいかななくてはと思います。

(記入者名 島村雅人)

<返送先> 〒102-0085 東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会 電話/FAX03-5216-7757